

○ 本校の概要

児童数280、学級数11、教員数22名、今年度開校117周年を迎える地域に密着した学校である。通年、地元の祭りや伝統的な行事への参加はもちろんのこと、干潟観察や蚕の授業など、地域の方々と学校が一体となって子どもたちの健全育成に取り組んでいる。また、羽田空港に最も近い学校であり、総合的な学習の時間を用いたバリアフリーの学習やキャリア教育、空港イベントへの参加等、空港と日常的に連携をとり、学校教育に生かしている。また、東京都人権尊重教育推進校としての歴史は長く、近隣の高齢者団体や幼・保育園、障害者施設や食肉市場の方々と交流を通して、都の人権課題について積極的に学習に取り組んでいる。このように、本校は「地域力と国際都市おおた」の実践に意欲的に取り組み、「人権尊重教育」に力を注いでいる学校である。また、学力向上においては、放課後補習教室や土曜補習教室（羽田っ子塾）などを利用し、日頃の学習の成果や学習効果測定などの結果を基に、全教員が力を合わせて指導に当たっている。漢字検定では全ての児童が合格するまで指導し、学力効果測定の結果にもその成果が見られるようになってきている。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	評価	人数	学校関係者記入欄 コメント					
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	「自分の考えや感じたことを友達に言葉で伝えることができる」と回答した子どもの割合	4: 80%以上	今年度は、マスクやフェイスシールドを着用した新しい学習スタイルを取り入れた。校内研究では「言語活動の充実」に力を入れた結果、「自分の考えや感じたことを友達に伝えることができる」と回答した子どもの割合が70%を超えた。来年度は体験活動をより充実させていく。	A	6	コロナ禍で子どもも親も先生も手探りの状態の中、新しい学習スタイルを取り入れた指導をしていただき感謝しています。 近年の授業は、発言や発表の機会が増えていると感じます。家庭でも正しい言葉遣いに気を付け、コミュニケーション能力を向上させ、発言が苦手な子どもたちも楽しく自分の思いを表現できるようになることを望んでいます。来年度の体験活動が楽しみです。					
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	1		3: 70%以上		B							
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4		2: 60%以上		C							
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4		1: 60%未満		D							
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	1											
		授業の中で、児童が自分の思いや考えを表現する場を作っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4											
		プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。		4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。		4	算数ステップ学習プリント100点到達率		4: 90%以上	全校で算数ステップアップ学習プリントを単元末に行い、100点になるまで直しをさせワークテストを行った。学期末には家庭に返し、学習の状況を知らせることができた。次年度は、口頭で保護者と児童に説明できる機会を設けていく。	A	6	放課後の時間を過ごす中で、宿題に積極的に取り組む子どもたちが多いことに感じました。家庭学習をすることで親子のコミュニケーションの場が増えることは良いのですが、一方で家庭の苦労も多いように思います。苦手な科目ができるようになるうれしさや楽しさに、子どもたちが興味をもてるようになることを望みます。
算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。			3	3: 80%以上	B									
学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。			4	2: 70%以上	C									
授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。			4	1: 70%未満	D									
計画的に問題解決的な学習を取り入れた授業を行い、児童の能力の向上を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。			4											
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。			小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	「自分によいところがある」と思うと回答した子どもの割合	4: 90%以上		今年度は道徳教育特別委員会を設置し、計画的に研修を行い、授業に活かすことができた。道徳授業地区公開講座では、各クラスの道徳の授業を事前に録画し、保護者会で指導案と共に公開した。次年度は、児童の自己有用感がより高まるよう、児童が主体的に取り組める活動の充実を図っていく。	A		5	「自分によいところがある」と思うと回答した子どもの割合が下がってしまったことは気になりますが、言えない控え目な性格が悪いとは思わず、日本人の良い所なのではと感じたりもします。一人一人の性格を大切にしていあげて欲しいと思います。 子どもたちの成長において、自己肯定感を高めることの指導方法はとても大事だと思います。子どもたちが協力し合い、思いやりのもてる経験ができると良いと思います。 今年度の学校公開は時間等の制約がありあまり落ち着いて参観ができなかったので、来年度はゆっくり参観できると良いと思いました。	
				道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3		3: 85%以上			B		1		
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	2: 80%以上	C									
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	1: 80%未満	D									
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり実施しなかった。	4											
		児童が主体的に取り組める活動の場を作り、その成果を的確に評価している。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4											
		プラン4 体力増進の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4		自分から進んで羽田ツップタイムに参加した児童の割合	4: 80%以上		今年度は、朝に羽田ツップタイムとしてラジオ体操とリズム縄跳びを行い、運動する習慣を身に付けさせようとしたが、分散登校明け・暑さ・任意参加等の理由で児童に定着しなかった。次年度は、運動の内容を工夫し、参加者の増加を目指していく。	A	5		練習する時間が少ない中、子どもの思い出作りとなる運動会などを実行し、成果をあげたと思います。体力づくりは、体を動かす場が足りず、ころぶ、ぶつかる子どもが多いと思いました。コロナの影響で体力・筋力が低下する児童がいる中、羽田ツップタイムは良い企画だと思います。密を避けながらの運動習慣の定着が難しかったようですが、低学年は積極的に取り組む姿が見受けられました。制限がある中大変だと思いますが、工夫をお願いします。
給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。			4	3: 70%以上	B									
体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。			4	2: 60%以上	C									
ソーシャルディスタンスを確保した、体力向上を図る運動の取り組みを継続的に推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。			4	1: 60%未満	D	1								
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。			授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	教員は子どもたちに目標をもたせ、その「めざす自分」に向かって努力できるようにしている。と回答した保護者の割合		4: 85%以上	今年度は、若手教諭が主体的に研修計画を立て、OJTを充実させることができた。次年度は、それぞれが学んだ研修の成果をより伝えやすいように、研修時間の確保に努める。		A	6	今年度は先生方の転出転入が多く、コロナと重なり大変だったと思います。先生方が自分の学級のみならず、他学年の児童のことも把握されており、学校全体で児童の教育に携わっていると感じます。少しクラスが大変であった先生もいたようですが、これから子どもたちから信頼され、一緒に成長していってほしいと思います。先生方の努力に感謝すると共に、より一層の教育環境の充実を望みます。来年度に期待しています。	
				授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4			3: 75%以上			B			
				各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4			2: 65%以上			C			
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	1: 65%未満	D									
		自身の課題を明確にして公開授業に取り組み授業改善を図る。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4											
		プラン6 なつて学校とも・家庭とも・地域教育が一体と	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4		「家庭では子どもにあいさつや返事をしっかりとさせている」と回答した保護者の割合	4: 90%以上		今年度はホームページを活用し、動画を配信したり、毎月写真を公開したり、地域や保護者に向けて積極的に情報を配信することができた。次年度は、個人持ちとなる児童用タブレットを活用し、様々な情報発信ができるようにしていく。	A	4		全学年タブレットの活用が始まり、親も子も学びの場を頂いたと思います。タブレットが何のための道具なのかを考え、これからの社会に対応できる子どもたちになってもらいたいと思います。 また、今年度はコロナの影響で学校と地域の連携がとれなかったように思います。信頼関係を結ぶためにも、多くかわってもらいます。 そして、子どもたちの挨拶と返事は家庭で保護者が見本となる行動をとっているかが大きく影響していると思います。地域・家庭・学校で連携を図り、子どもたちのために協力していきたいです。
				地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4			3: 80%以上			B			
学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。			3	2: 70%以上	C	1								
児童の「わかる」「できる」につながる家庭学習を出し、学習指導に活かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。			4	1: 70%未満	D	1								
自分から進んで挨拶しようとする意識を高め、挨拶の習慣化を図る。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。			4											

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である B：自己評価はおおむね適切である C：自己評価は適切ではない D：評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。